

「つや姫」栽培管理情報第1号



平成 29 年 4 月 27 日 島根県農業技術センター技術普及部

4 月下旬となり、本県では、各地の田んぼで田植機が走り始めました。

さて、本県の「つや姫」は、平成 24 年の奨励品種採用以降、作付面積が拡大し、本年においては、大台の 1,000ha を超える作付けが予定されています。

また、本県の「つや姫」は、一般財団法人日本穀物検定協会が主催する「米の食味ランキング」において、平成 26、27 年と 2 年連続で最高評価の「特 A」を獲得していること等から、実需者からの引き合いが強く、供給量が不足している状況です。

このような中、当センター技術普及部では、この情報誌やマイスター研修会を通じた生育状況、栽培管理ポイント等の情報発信や、1.9mm ふるい目に対応する大粒化を目的とした新たな技術実証ほの設置等により、「つや姫」の高品質、安定生産を進めていきます。

本年においても、生産者と関係機関が協力して栽培管理に取り組み、消費者のみなさまに喜んでいただけるお米を作りましょう。

1 当面（育苗～田植え～分けつ初期）の栽培管理ポイント

- 良質苗の育苗
- 適正な株間と植付本数
- 地力に応じた施肥[※]
- 活着から分けつ初期の水管理
- 効果的な除草剤使用[※]

※) 特別栽培基準を厳守

化学肥料の窒素分量：4kg/10 以下、節減対象農薬の使用回数：10 回（成分）以下

□良質苗の育苗

- ・ 今後は、気温が高くなることで、ハウス内の急激な温度上昇により、病気の発生や床土の乾燥などが予想されます
- ・ そのため、細めに育苗ハウスの見回りを行い、温度管理に注意するとともに、適度な灌水を行います

□適正な株間と植付本数

- ・ 植え付け株数は 60 株/坪（株間 18cm）程度を目安とし、整粒比率の低下や玄米タンパク質含有率の増加に繋がりやすい極端な疎植は避けます
- ・ また、植え付け本数は、3～4 本/株程度にします

□地力に応じた施肥

- ・ 施肥設計の目安は、総窒素施用量 5.0kg/10a ですが、基肥において、地力の低いほ場

では、茎数確保のため 1kg/10a 程度増施し、反対に地力の高いほ場では、過繁茂を防ぐため 1 kg/10a 程度減肥します

① 体系施肥 基肥：3.0kg/10a＋穂肥：2.0kg/10a

② 一発施肥 基肥：5.0kg/10a

- ・但し、総窒素量のうち、化学肥料の窒素成分量の合計は 4.0kg/10a とします
- ・有機態窒素入り一発肥料は、比較的容積重が軽く粒径が大きいため、側条施肥の場合、施肥機の調節目盛り通りに肥料が落ちにくい傾向があります。そのため、施肥機の日盛りを 15～20%程度多めに設定し、施肥量を確認します

□活着から分けつ初期の水管理

- ・田植え後新根が伸びるまでの 3～4 日間は、保温効果を高め、初根を促すため、水深が 3cm より浅くならないように湛水します
- ・また、気温の低い時や風の強い時は、深水にして保温に努めます
- ・活着後は、除草剤処理期間を除いて 2cm の浅水とし、分けつの発生を促進します
- ・さらに、分けつが順調に発生し始めたら、土壌の還元化による根痛みを防ぐため、間断灌水を行うことでガスを抜き、根の健全化を図ります

□効果的な除草剤使用

- ・雑草の葉齢進展速度は、水温によって異なるため、処理時期を逸しないように注意します
- ・初期における一発処理剤の使用は、処理後の 1 週間、田面の露出がないようにすると効果的です。そのため、代かきを丁寧に行い、水もちを良くするとともに、ほ場を均平にします。さらには、水尻や畦畔から水漏れがないことを良く確認します

2 「つや姫」普及実証ほの状況

本県では、今年度、「つや姫」マイスターの各圃場の実証ほを設置させていただき、品質向上（登熟向上による大粒化）に向けた新たな技術の実証に取り組みます。

4月21日（金）には、農業技術センターにおいて、実証ほ設置計画検討会を行い、以下のとおり、1年間の計画を策定しました。

（1）設置場所、箇所数

安来市 2、松江市 4、雲南市 2、出雲市 5、大田市 2、邑南町 1、江津市 2、益田市 2
計 20 箇所

（2）成果指標

一等米比率：80%以上、ふるい目 1.9mm による減収率：2.9%以下

（3）実証技術

- ・土壌改良剤の施用
 - ・分けつ期の深水管理による茎数抑制
 - ・肥料による生育制御
- } 登熟向上による大粒化（高品質化）

問い合わせ先 農産技術普及課 松崎、野津 TEL(0853)22-6967